

第二章活用事例

小学校一・二年生版「心あかるく
「いのちって あたたかい」

p.98
2
p.99

中心資料

「ハムスターの 赤ちゃん」(わたしたちの道徳 小学校
一・二年 平成二十六年 文部科学省)

【主題名】 いのちをまもり育てる

第一学年及び第二学年 3・(1) 命の大切さ
「生きること喜び、生命を大切にすることを。」

【ねらい】 身近な生き物の命の大切さに気づき、命あるものすべてを大切にしようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》一・二年生の時期の児童は、日々の生活の中で生きていくことの実感や自分が育ててもらっていることの実感をもつことが難しい。また、人以外の生物の命を大切に育てようとする意識もまだ高くない。身近な生き物の誕生や成長を見つめながら生きていくもの全ての命を大切にしようとする心情を育てることが大切です。



「どうぶつの赤ちゃんを見たことがありますか。」
「どのようなことを思いましたか。」

○児童の発表の後、写真などでいくつかの動物の赤ちゃんを見せて、思ったことを発表させ、動物の赤ちゃんへの関心を高めましょう。

○教師が「ハムスターの 赤ちゃん」を読み聞かせましょう。



「生まれたばかりのハムスターの赤ちゃんを見た時、『わたし』はどのような気持ちだったでしょうか。」

○小さくて毛も生えていなくて、目も開いていない赤ちゃんを見ている「わたし」の気持ちに共感させましょう。

中心発問



「お母さんが赤ちゃんを口にくわえているのを見て、『わたし』はどのようなことを思ったでしょうか。」

○お母さんが赤ちゃんを大事な宝物のように守っている様子を感じ取らせましょう。

《評価》

日に日に成長していくハムスターの赤ちゃんの姿を見ている「わたし」の心情に共感することを通して、命の大切さに気付くことができたか。



「大きくなっていく赤ちゃんを見て、『わたし』はどのようなことを思ったでしょうか。」

○吹き出しを付けたワークシートなどに「わたし」の思いを書かせましょう。



「命ってあたたかいな、大切だなと感じるのはどのような時でしょうか。」

○自分の命はもちろんのこと、動植物の命も大切なのだというところを感じ取らせましょう。

○「心あかるく」の「いのちってあたたかい」の写真を見ながら、いのちの大切さについて考えさせましょう。

板書例

ハムスターの 赤ちゃん

動物の赤ちゃんを見たことがありますか。
どのようなことを思いましたか。

- 小さくてかわいかった。
- 毛がなくて、目があいていない。
- 馬などは生まれてすぐ立つようになる。

生まれたばかりのハムスターの赤ちゃんを見た時、「わたし」はどのような気持ちだったでしょうか。

- ちいさくてかわいい。
- 一度にたくさん赤ちゃんが生まれるのだな。
- だいじょうぶかな。生きられるかな。
- はやく大きくなってね。

お母さんのおっぱい
をすっている挿絵

お母さんが赤ちゃんを口にくわえているのを見て、「わたし」はどのようなことを思ったでしょうか。

- 赤ちゃんはいたくないのかな。
- お母さんって大変だな。
- お母さんにとって、赤ちゃんは宝物なんだ。
- お母さんが赤ちゃんを守っているのだな。

お母さんが世話
をしている挿絵

大きくなっていく赤ちゃんを見て、「わたし」はどのようなことを思ったでしょうか。

- 元気に育ってね。
- もっともっと大きくなってね。
- 私もお母さんに大切に育てられてきたんだな。

「いのちってあたたかいな、大切だなと感じるのはどのような時でしょうか。」

- 生き物をだいたった時にあたたかくて、大切にしようと思った。
- お母さんが大切に育てているのを見た時。

《評価》 ハムスターの赤ちゃんの様子を見ている「わたし」の気持ちに共感し、命あるもの全てを大切にしようとする心情を育てることができたか。